

夢をえがこう 自分をえがこう 嶮山あったか ハーモニー

# 嶮山小通信

ホームページアドレス <https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/kenzan/>

横浜市立嶮山小学校

TEL:902-7161,7162

FAX: 904-4254

2月号 令和 4年1月31日

校長 山口 昭代



## 「春」を迎えるために

副校長 鎌田 忠裕

朝晩、まだまだ厳しい寒さが続いています。暦の上では、春を迎えようとしています。

現在、神奈川県全域に「まん延防止等重点措置」が適用されています。横浜市内においても感染者は爆発的に増加しており、近隣校や幼稚園・保育園でも閉鎖や臨時休校・休園等が相次いでいる実態があります。本校の感染状況も刻一刻と変化し、まだまだ収束には向かってはいません。それゆえ、御家庭におかれましては、引き続き、手洗い等の感染防止対策、健康観察の御協力をよろしくお願いいたします。また、御本人、御家族や同居の方に体調不良が見られる場合や、新型コロナウイルス感染症の感染の疑いがあり、PCR等の検査を受ける場合には、検査結果が判明するまでの間、お子様の登校を控えていただきますようお願いいたします。今後も、横浜市立学校ガイドライン等に基づき、感染防止措置の徹底を図り、教職員一同子どもたちが安心して学べる環境づくりに注力してまいります。

さて、明日から2月になります。2月は1年の中でも短い月であり、あっという間に逃げてしまう月であるともいわれています。2月4日は「春が立つ」と書いて春の季節の始まりとされる「立春」です。昔の暦では、この頃が1年の始まりの季節であるとされていました。江戸時代以降、毎年2月4日の立春の前日は「節分」といわれるようになったそうです。

節分は「鬼は外、福は内」と声を出しながら豆をまき、年齢の数だけ(もしくは1つ多く)豆を食べます。また、邪気除けとして、玄関などに柊鰯などを飾ります。季節の変わり目、特に年が変わる「春の節分」には、邪気が入りやすいと考えられていました。そこで、邪気を追い払い、福や運を招き入れるため、豆まきをしたり飾り付けをしたりしたのです。最近では、幸運を招く方角を向いて黙って太巻きを食べる風習もあります。(2022年は「北北西」)こうした風習は地域によって違いがあるようです。

### 【地域による節分の違い】

○豆まきのかけ声:地域に残る言い伝えなど、鬼に対する考え方で異なってくる。

・「福は内」のみ ・「福は内、鬼は内」 ・「鬼は内、福は内」 ・「福は内、鬼、外」 ・「鬼は内」 など

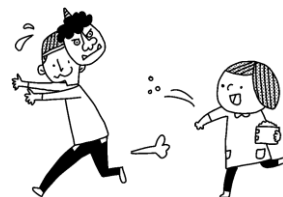
○北海道、東北地方、信越地方の一部や九州地方の一部では、大豆ではなく落花生。

○豆まきをしない地域もある。

○節分に食べるもの

・「大豆」(「落花生」) ・「太巻き」 ・「イワシ」 ・「こんにやく」

・「けんちん汁」 ・「そば」 ・「クジラ」 など



昔から節分は、春を迎えるための大切な行事とされてきました。しかし、最近は様々な状況や時代の流れの中で、豆まきをすることが難しいともいわれています。節分や豆まきの意味を知り、自分の中の「追い出したい鬼」を追い出し、新鮮な気持ちで春を迎えたいものです。

一日も早くこの状況の収束を待ち、町にも学校にも人々の心にも「春」が来ることを楽しみにしたいです。